42

プリントアウトした請求票は、所蔵部署階のカウンターにお持ちください

2011年01月06日 11：34：48

入館証番号：

＜請求票＞
Call Slip

317.8
5029
1943

資料名：満蒙行政瑣談

巻次　：

著者名：金井章次 // 著
出版者：創元社　　頁数　：342p
大きさ：19cm　　出版年：1943.4

所蔵館　：中央
所蔵部署　：**1階資料お渡し・返却カウンター**

配置場所　：1/65A 中)MB1書庫A
資料ＩＤ　：5016631510

一 社 人 自 東 新 ↓ 一 社 人 自 東 新	力	事
	請求	報告

MB１	ﾏｲｸﾛ	B1	ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ	原紙	縮刷	
MB２	ﾏｲｸﾛ	B2	洋	中	朝	

行	1F	B1	B2		
多	児	青	1F	B1	B2

切り取り

2011年01月06日 11：34：48

入館証番号：

Call Slip

＜請求票＞(控)

書名
資料名：満蒙行政瑣談
巻次　：
著者名：金井章次 // 著
出版者：創元社
出版年：1943.4
大きさ：19cm
頁数　：342p

所蔵館　：中央
所蔵部署　：**1階資料お渡し・返却カウンター**
配置場所　：1/65A 中)MB1書庫A
資料ＩＤ　：5016631510

請求記号
317.8
5029
1943

B5

目次 1～6.
本文 34～36
44～46

目次

教養所で教養……三
事變前の渡滿苦力……六
驢馬の拘引……一一
遊覽船の修理……一六
無理は通らぬ……二〇
農民訴願の表裏……二五
珍妙な留任運動と頌德表……二八
物言はぬ民……三一
卵賣りにも民族性……三四
報告と實際……三七

佛　光……四〇
民族性を介して……四四
二・二六事件と白系露人……四七
平年作は六分作……五一
支那農民の作物轉換……五五
事變前の納税、徴税……五八
双方で困つた豫算觀念……六二
學良の春耕借款金……六六
グレシャムの法則で金儲……六九
北寧鐵路の交渉……七九
O・N!!　O・N!!……八三
鐵道運行の意氣……八七

奉山線の白人路警……九〇
馬占山の思ひ出……九三
もう懲り懲り……九九
最初の鑛石運搬車……一〇一
産業戰士のおもかげ……一〇五
命がけの印鑑……一〇九
至誠の賜物……一一三
岫巖縣長の反亂（其の一）……一一八
岫巖縣長の反亂（其の二）……一二四
岫巖縣長の反亂（其の三）……一三〇
匪賊の歸順に通則なし……一三七
武器同收……一四一

歸順式……一四六
歸順匪の取扱ひ……一五二
彈丸貫ひのからくり……一五五
歸順匪の自衞團稼ぎ……一六〇
憲兵の立會はごめん……一六三
戰亂後の平靜……一六八
W縣長の通匪事件……一七五
敗退者の頭の良し惡し……一八三
初期治安工作の要諦……一八六
祝賀行列の印象から……一九〇
通匪部落か……一九三
環境が治安を物語る村々の樣相……一九六

銃聲から通匪者檢擧……二〇二
治安は現地人との提携で……二一〇
人の和は治安に及ぶ……二一三
物資の動きと地方治安……二一七
治安と農作物の關係……二二一
外地のデマ……二二五
情報の讀み方……二三〇
滿洲最初の宣撫員……二四四
討伐と宣撫……二四七
逆宣傳……二五一
M君のおもかげ……二五七
殉國殉友……二六〇

大陸で遇つた青年の思想……二六四
立場の了解……二七一
面子論……二七六
明朗政治……二八六
司令官の一言……二八九
蒙古人の通貨觀念と民族の復興……二九四
同民に就て……三〇〇
後記……田邊壽利　三〇五

滿蒙行政瑣談

卵賣りにも民族性

頭腦明敏、執務明快と言はれた青年官吏達が、支那大陸に渡つてからする仕事が、事毎に現地人から批判、誹謗の種子にされるのは、一つには支那社會研究不充分と、一つには民族觀念の缺如から來るのである。

ハイドパーク公園のボート漕ぎは夏のロンドンの名物と言つてよからう。私は二高時代に松島灣でオールを握つた經驗もあるので、暇を見てはよくこのボート漕ぎの仲間入りをやつた。夏の一日であつた。紅唇金髮のレディが颯爽と言ひたいが、全くの素人と見えて池の名前同樣に蛇行して來て、イヤと言ふ程私のボートの横腹にボートを打ち當てた。この場合イギリスでは、打ち當てられたのが男であつたら、男の方から頭を下げて「エキスキユーズミー、ミス」とお詫びを言ふのが紳士の婦人に對する禮儀であると定められてゐるやうだ。こ

れ位の英國式禮儀は如何に武骨な私も前々承知ではあつたが、レディの顏面が見る見るうちに硬ばつて、眦が上り口唇が歪んで來たので、雲行き險惡だなと、それに氣を取られてゐた瞬間「ユー、ジャップ」と落雷した。相手がスマートな英國紳士であつたら、「早く挨拶しなさい」と許りの表情で接するであらうが、日本人の私では相手が悪かつたのだ。眞の英國式淑女も民族性の前には勝てなかつたと見える。

閣島省長時代であつた。勝手に接した部屋で書見をしてゐると、半島人の御用聞きが卵を賣りに來てゐた。新時代の省長である。勝手元は必ずしも豐かでない。買物が吟味されねばならぬのは當然であらう。やがて家内と取引きが始まつた。

「あなたの所の卵は先日買つたが皆腐つてゐて食べられなかつたよ」と小言が出た。

「さうですか。皆腐つてゐる卵なら買はなくてもいゝですよ」と御用聞き殿も家内の小言で腹を立てたか、プイと飛び出して終つた。

「生意氣な御用聞きめ」と言つて、家内の立腹は仲々收まらぬ。そこへ今度は滿洲人の卵賣りが入つて來た。家内の忿懣はこの滿人に迄延長された。しかし今度の卵賣りは落ついた

ものだ。

「奥さん、この前の卵は皆腐つてゐたかも知れませんが、今度は腐つてゐませんよ。まあ割つて見て下さいよ」で途に、家内は二、三十の卵を買はされた。

私は書見を中止して家内に説明した。半島人の氣性は内地人に似た所がある。これが内地の商賣人であつたと假定して見ると、わざ〳〵御用聞きに來てその瞬間、頭からお前の所の卵は皆腐つてゐると敗鳴られたら、誰だつて好い氣はしない。腹の立つのは當然である。半島人もその邊は内地人そつくりだ。しかし滿人となると、より合理性が發達してゐる。結局卵を賣りさへすればよいのだから、その邊は心得たものだ。この前のは腐つてゐたかも知れぬが、今日のは腐つてゐないと言ふ。誰も腐つたものをわざわざ賣りに歩くのでは商賣は永續きせぬ。此方が腹を立てれば立てる程、脆く降參させられてしまふ。

此處に内地人、半島人、滿洲人の氣質の相違が明瞭に表はされてゐる。

報告と實際

長いこと田舍に腰を落付けて、農村の實態調査をするならば別の事、簡單に、一寸出張して調査しようとすると、支那農民の無理解から、却つて歪曲された調査成績を作つて終ふ。

滿洲事變前の支那側の調査等には、相當出鱈目なものが多かつた。事變當時、經濟界の變動につれて物價に異狀を來したので、各縣に命令して時々の物價表を提出させて參考資料にした所、大部分の報告は最初提出されたものと、餘りにも變動がなさすぎる表であつた。

この事にヒヨツと氣付いたので、人を派して、實情を調査させた所、何と、係りの役人が、最初の第一回は商務會等に問ひ合はして、一通りの物價表を作成したのであつたが、第二回目の報告からは一人極めで然るべく作製して提出してゐたものであつた。ひどいのになると、第一回の分を何度も、そのまゝに書き寫して提出してゐた等といふ心臓の強いのもあつた。

民族性を介して

我々は白米の味ならば、壽司米と普通米と糯米との相違位は誰でも分る。更に詳しければ米の産地迄も、味覺の上から判定する。然るに今、羊の肉を味つて、これが西スニツト、東スニツトで、あれは貝子廟だ、張家口の羊だ等と味ひ分ける事は出來ない。處がこの羊の肉の味はひは蒙古人にとつて重要な問題である。

食物に對する相違や敏感度に於て已に然りである。それが永い間の傳統になり立つた社會的因襲になると、餘程その民族の立場に共感しなくては理解がつかぬ。

盲腸炎が昂進して腹膜炎になりさうだ、至急手術しなければ生命の程が氣遣はれると、お醫者が手術衣を纏つて手を洗ひ、いざ手術に取りかゝらうとした時でも、なほ一應喇嘛僧にお伺ひを立てぬと、手術の可否は返事出來ないと云ふ。我々から見れば全く腹の立つ樣な言ひ分であるが、蒙古人から言へば、我々が醫術に捧げると同樣の信賴と帰依の念を、喇嘛に捧げてゐるまでである。決斷の契機が、醫者か、喇嘛僧かといふ差だけで、非常の場合或物にすがらうとする信賴歸依の念そのものには、兩者に輕重がない。

支那の人に一通り込み入つた話をすると「是的是的」と言ふが、通譯はこれを大概は、英語の「イエス、」「然り」の意味で通してしまふ。相手がうまく承諾した事と思つたら何の事。相手の話に相槌を打つて、日本語ならば、「成程成程」といふ位の意味の事もある。通譯等は普通そこ迄は氣を附けぬ、これでとんでもない間違ひを生じた話が纏つもある。

要は、支那人は相手の日本人がえらい勢ひで話を持ち込むと、一應は相手の、「面子」を立てる、こゝに間違ひが起きる。

時には「是的是的」どころか、「好」「好」といふ、日本語に譯せば、「結構結構」であるが、實際は結構でも何でもなくて、全く反對の事さへある。支那人との話が、左樣に面倒であれば、最早や話は出來ぬと考へられるかも知れないが、又そんなに早呑み込みをする必要はない。

結局、すでに決したものを相手に押しつけるか、或ははじめから相談的に持ちかけるか、一に話しかける人の態度によつて定まるのである。

民族性は注意すれば、民族成員に共通の性格を發見する事が出來る。それが民族的な社會的慣習と織りなされてをるので、非常に複雜な感じを起すのだ。

二・二六事件と白系露人

その頃、私は哈爾濱で勤務してをつた。事變の第一報は、午前十時頃手に入つた。

海外にをると內地のことについては、飛んでもないことが傳はつてくるので、この時も、事件を信んずるでもなく、疑ふでもなく、いづれ續報があらうからと、次の情報を俟つてをつた。第二、第三とつゞいて報告が入つて來た。

私の知る範圍では、在留邦人はいづれも冷靜であつた。

萬邦無比なる國體の有難味が、今更の如くひしひしと身に感んぜられるのである。

日本人に對しては問題ないのであるが、滿洲國人や、白系露人のうちには、或はこの事件に就て、妙な誤解を起さうものがないでもあるまいから、民族別にして、一應、對策を講ずる必要があらうと考へた。